事業番号20―1

2022 年度

事業シート（概要説明書）

予算事業名	**移住者受入モデル地域育成支援事業**	事業開始年度	2013年度
上位施策事業名	「くらしたい国、富山」の発信による移住の促進	担当局・部名	地方創生局
根拠法令等	―	担当課･係名	地方創生・移住交流課
事務区分	■自治事務　□法定受託事務	作成責任者	福島

実施の背景	【背景】 首都圏等からの地方移住のニーズが高まるとともに、2年後に北陸新幹線開業が予定される中、さらなる移住促進と地域活性化を図るべく、2013年度より、移住者受入れに積極的な地域への取組みを支援する本事業を開始した。 【事業概要】 市町村が推薦した、移住者の受入れに積極的に取り組む地域を、県が「移住者受入モデル地域」として認定し、当該地域における受入計画の策定や移住希望者の視察受入れ、地域での日常生活を体験できる移住交流体験施設整備などの事業に要した経費の一部を、複数年度にわたり、市町村とともに県が支援するもの(支援期間は認定年度を含み5年間)
目　的 （何をどうしたいのか）	移住者を積極的に受け入れている「移住者モデル地域」をPRすることで、当該地域のみならず、県内全体の移住者増加につなげたい。

事業概要

対　象 （誰・何を対象に）	「移住者受入モデル地域」に認定された地域(6市町8地域)	対象者数（全住民に対する割合） 8250 人（0.8 %）
実施方法	□直接実施	
	□業務委託 又は □指定管理　（委託先又は指定管理者：　　）	
	■補助金〔直接・間接〕（補助先：市町村　実施主体：モデル地域自治会　）	
	□貸付（貸付先：　　）□その他（　　）	

事業内容（箇条書き）	事業費		活動指標
「移住者受入モデル地域」の認定		千円	
移住者受入モデル地域育成支援 (モデル地域が実施した先進地調査、専門家招聘、空き家調査、HP作成等に掛かった費用の一部支援) 補助割合：県1/2　市町村1/2 支援上限(県)：計画作成　250千円 計画実施　500千円	1,200	千円	
移住者受入モデル地域トータルサポート (モデル地域での宿泊体験・交流施設の備品購入及び整備に係った費用の一部支援) ・備品購入 補助割合：県45/100 市町村45/100 地域10/100 支援上限(県)：2,250千円 ・施設整備費 補助割合：県5/12 市町村5/12 地域1/6 支援上限(県)：10,000千円	12,250	千円	
県による「移住者受入モデル地域」の調査費等	350	千円	
		千円	

関連事業 （同一目的事業等）	

事業番号20―1

2022 年度

事業シート（概要説明書）

予算事業名	移住者受入モデル地域育成支援事業	事業開始年度	2013年度

コスト

		2022 年度（予算）	2021 年度(決算)	2020 年度(決算)	2019 年度(決算)
事業費	事業費合計	13,800* 千円	376 千円	253 千円	275 千円
事業費	事業費内訳 (2021年度分)	・射水市内川地域への移住者受入モデル地域育成支援事業費補助金　125千円 (空き家調査、シンポジウム開催、リーフレット作成費に係った費用の一部支援) ・氷見市ろんくま地域への移住者受入モデル地域育成支援事業費補助金　250千円 (先進地調査、専門家意見聴取、計画書作成などに係った費用の一部支援) ・氷見市ろんくま地域への調査費　1千円 （県職員の交通費） (参考　2022年度予定) ・射水市内川地域への移住者受入モデル地域育成支援事業費 ・射水市内川地域への受入モデル地域トータルサポート事業費 ・氷見市ろんくま地域への移住者受入モデル地域育成支援事業費 ・県によるモデル地域の調査費 *今年度は内川地域で移住体験施設を整備予定のため、予算増額。		
人件費	担当正職員	0.2 人 1476 千円	0.2 人 1460 千円	0.2 人 1453 千円	0.2 人 1505 千円
人件費	臨時職員等	人 0 千円	人 0 千円	人 0 千円	人 0 千円
人件費	人件費合計	0.2 人 1476 千円	0.2 人 1,460 千円	0.2 人 1,453 千円	0.2 人 1,505 千円
	総事業費	15,276 千円	1,836 千円	1,706 千円	1,780 千円

財源内訳

	2022 年度（予算）	2021 年度(決算)	2020 年度(決算)	2019 年度(決算)
国県支出金	6,725 千円	187 千円	126 千円	137 千円
国県支出金の内容	地方創生推進交付金			
地方債	千円	千円	千円	千円
その他特財	千円	千円	千円	千円
その他特財の内容				
一般財源	8,551 千円	1,649 千円	1,580 千円	1,643 千円
財源合計	15,276 千円	1,836 千円	1,706 千円	1,780 千円

事業実績

	【活動指標名】（実績値/目標値）	単位	2021 年度	2020 年度	2019 年度
活動実績	「移住者受入モデル地域」候補地の調査及び地域からの相談	地域	3/	4/	1/
活動実績	「移住者受入モデル地域」への支援	地域	2/	2/	2/
活動実績	「移住者受入モデル地域」へのフォロー(累計)	地域	8/	7/	7/
活動実績	「移住者受入モデル地域」への移住者受入整備費用の一部支援 (2018年度：1,021千円 2017年度：23,438千円)	千円	375/	253/	275/
単位当たりコスト	総事業費 ／ 移住者受入モデル地域	千円	230	244	254

事業成果

成果目標 （指標設定理由等）	・移住に関する相談件数(2026年度　3000件) ・県外からの移住者数（2024年度 1000人）

成果 （目標達成状況）	【成果指標名】（実績値/目標値）	単位	2021 年度	2020 年度	2019 年度
	移住に関する相談件数	件	3406/3000	3309/3000	3377/3000
	県・市町村の相談窓口を通した移住者数	人	823/1000	764/1000	734/1000
			/	/	/

事業番号20―1

2022 年度

事業シート（概要説明書）

予算事業名	移住者受入モデル地域育成支援事業	事業開始年度	2013年度

事業の自己評価 （今後の事業の方向性、課題等）	・2013年度に事業を開始し、2021年度までに8地域をモデル地域に認定した。各モデル地域では移住者の受入が進んでおり、整備に支援を行った交流施設においては地域住民との交流会等も活発に開催され、県外の利用者も多い。近年新たなモデル地域への認定に向けた相談は複数あるものの、地域全体での移住者受入に係る取り組み方針が定まらず、申請に至らなかったケースもあったが、今後も移住者の受入に積極的な地域からの、新たなモデル地区認定申請の動きも見込まれる。 ・今後も移住者受入を積極的に取り組むモデル地域を増やし、移住者の受入体制を強化することで、県内の移住者を増加につなげたい。そのためには、県内地域において、移住者受入による地域活性化に向けたさらなる機運醸成等が課題であり、引き続き、財政的支援を行うことに加えて、人的支援などの取り組みも必要と考えている。また、モデル地域をテーマとした移住セミナーの開催なども含め、モデル地域のさらなるPRにも努めてまいりたい。
比較参考値 （他自治体での類似事業の例など）	●福井県：制度なし ●石川県：制度なし ●長野県：2015年度から移住者を積極的に受け入れる意欲のある地域を移住モデル地区に認定し、全国に向けて情報発信を行う。 〈支援内容〉 ・三大首都圏で開催する移住セミナー等で優先的に地区を紹介(チラシ等の配布) ・県及び楽園信州のホームページで地区の取組を紹介 〈認定地区数〉　5地域 ●京都府：2016年度から市町村から申出があった移住者の受入に積極的な地域(移住促進特別区域)への移住を支援 〈支援内容〉 ・不動産取得税の軽減 ・空家改修などの助成 ・借入資金の金利負担の助成 〈認定区域数〉　103地域
特記事項	

移住者受入モデル地域への支援（ソフト・ハード）の概要

モデル地域の選定

取組み意欲のある地域、自治会等 ⇔ 協働 ⇔ 市町村

県 → 移住者受入モデル地域提案
実行委員会：市町村と地元自治会等で構成

県：モデル地域として選定、活動への助言

これまでに選定したモデル地域
（地元自治会等による移住者受入促進の取組みを支援）

事業実施の流れ

ソフト事業

移住者受入モデル地域育成支援事業

①受入促進計画の作成（1年目～）

補助：県1/2（上限25万円）、市町村1/2

計画の内容
①10年後のめざすべき姿、②地域が求める定住者像
③移住希望者の現地視察受入れ方法、④地域における役割分担
⑤空き家等を活用した地域の宿泊体験・交流施設の整備計画　など

【取組内容（例）】・実行委員会の開催　・先進地視察　・専門家招聘
・空き家調査　・計画書印刷　など

②計画の実施（計画作成後～5年目）

補助：県1/2（上限50万円）
市町村1/2

【取組内容（例）】
・地域の魅力向上のための研修会実施　・東京等でのセミナー開催
・雑誌への移住者募集広告掲載など情報発信
・ホームページ、PR映像作成　・移住希望者の現地視察受入れ　など

ハード事業（必要に応じて）

移住者受入モデル地域トータルサポート事業

○宿泊体験・交流施設を中心とした地域づくり活動に必要な備品整備
・特産品開発に必要な備品、伝統工芸の体験に必要な備品・道具等

補助：県45/100（上限225万円）、市町村45/100、地域10/100

○移住希望者の受入・交流に必要な施設等の整備
・移住希望者との地域住民の交流施設、伝統工芸体験施設等

補助：県1/2(上限1,000万円)、市町村1/2
または　県5/12 (上限1,000万円) 、市町村5/12、地域1/6

モデル地域の実績

地域名	認定時期	認定後から現在までの移住者数		移住後の状況	移住者受入・交流施設	近年の利用実績(人)						備考
						R3年度		R2年度		R元年度		
						県内	県外	県内	県外	県内	県外	
朝日町笹川 (R4：238人)	H25.12	9世帯	18名	1世帯が隣の地区に移動	ほたる交流館 (宿泊兼交流施設)	67	197	64	104	757	569	・帰農塾をほたる交流館にて行い、地元住民との交流会の拠点として利用。県内外から１０名の方が参加。来年度も帰農塾（笹川塾）を開催予定。 ・普段から地域行事などで、地元住民が利用
高岡市金屋町 (R4：543人)	H25.12	15世帯	不明 (R2.3までに19名)	2世帯が他の場所に移動 (留学など)	さまのこハウス (宿泊施設)	143	196	24	98	60	411	・宿泊施設として利用(楽天トラベルにも掲載) ・移住希望者と地元住民による浴衣でのまち歩きと施設を利用した小唄のイベントを開催し、85名が参加
南砺市城端 (R4：1858人)	H25.12	66世帯	120名	移住者は住宅購入に対する南砺市補助金を受けているため、移住後も多くの方が定住していると考えられる。	荒町庵/東町庵 (宿泊施設)	0	114	9	115	17	123	・利用者のほとんどが県外利用者 ・地域の会合などにも利用
南砺市利賀 (R4：468人)	H25.12	11世帯	16名		該当なし	―						―
氷見市速川 (R4：1145人)	H27.9	1世帯	3名	現在も定住	速川定住交流センター「ソライロ」 (宿泊兼交流施設)	1274	125	1809	81	3402	172	・コロナ前には、月に1回程度のイベント開催や県内・県外宿泊者と地元住民との交流会を実施 ・R4年度は氷見市内への移住者交流会を6月に実施 ・ワーケーションやリモートワークに来た宿泊者のワークスペースや、小中学生の勉強スペースとして開放 ・店舗前の畑を利用した農業体験や、速川地区の特産品の加工体験、藁細工・竹細工などの工芸品政策の体験も実施
魚津市片貝 (R4：984人)	H28.12	9世帯	32名	現在も定住	片貝来られハウス (宿泊施設)	0	10	8	6	31	12	・定期的にイベントは開催しているが、コロナのためイベントは現在自粛中
射水市内川 (R4：2266人)	H30.7	6世帯	12名	現在も定住	R4年度整備予定 (宿泊兼交流施設)	―						・施設は地域住民と移住者との交流会にも開放予定
氷見市論田・熊無 (R4：604人)	R3.6	1世帯	1名	現在も定住	R5年度整備予定 (宿泊兼交流施設)	―						・施設は特産品の加工所としても利用検討中

移住者受入促進計画(実例)

内川地区移住者
受入促進計画

2018～2022 年度

平成 31 年 3 月

うちかわ移住者受入モデル地域支援事業実行委員会（UIMP）

地域の概況と背景

「日本のベニス」と称される内川周辺地域は、どこか懐かしく、ノスタルジックな雰囲気が漂う港町としての魅力があります。近年は、映画やドラマのロケが相次ぐなどして県外からも注目が集まり、新湊曳山まつり等のイベント時に加え、日常的にも来訪者が増加しており、今後、さらなる交流人口の拡大が期待されています。

しかしながら人口減少は著しく、一帯の空き家率は約20%、多いところでは 40%を超える自治会もあります。伝統文化（曳山や獅子舞等）、地域の歴史ある建造物（神社・寺院・地蔵尊・石碑等）を維持・継承していくことが困難になりつつあるのです。そこで、放生津地域振興会、新湊地域振興会が中心となり、地元のNPO法人水辺のまち新湊と共に、空き家対策をはじめとした移住者の受入促進に取り組むこととなりました。

地域名

放生津・新湊地区の内川周辺地域
（近接の空き家比率の高い地域を含む）

住居表示	射水市八幡町1・2丁目、立町、放生津町、港町、中央町、本町1～3丁目
自治会	東町西部、天神町、荒屋本町、四十物町、山王町、 中町、 法土寺、 北長徳寺、古新町西部、奈呉町、西新町、東新町

人口

約1,650人／724 世帯

（平成 31 年 2 月現在）

うちかわ移住者受入モデル地域支援事業実行委員会について

平成30年度より、空き家率の高い７つの自治会、商工・まちづくり関係者、市職員など約30名が集まり、実行委員会を組織しています。県外からの移住促進施策として、空き家を活用した宿泊体験・交流施設などの整備や、移住者受入・交流を通じた魅力ある持続可能な地域づくりを行っていきます。目指すは「空き家の商品化」!!

平成30年度の活動

2018 年	5 月 9 日	**実行委員会発足**
	8 月 31 日	**移住者受入モデル地域支援事業認定**
	10 月 26 日	**先進地視察研修① 福井県坂井市三国町** 【訪問先】一般社団法人三國會所／町家ステイ「詰所三國」、「マチノクラ」、「マチノニワ」等 【参加者】17名（実行委員会メンバー）
	10 月 30 日	**先進地視察研修② 石川県金沢市大野町** 【訪問先】大野みらい・まちなみ委員会、こまちなみ醤油蔵、直江家源兵衛醤油、からくり記念館等 【参加者】19 名（実行委員会メンバー）
2019 年	2 月 1 日～	**空き屋物件の調査**
	2 月 12 日	**対話型講演会 &ワークショップ「空き屋大変身!大会議」** 【講師】山口 覚さん（津屋崎ブランチLLP代表、NPO法人地域交流センター理事） 【会場】高周波文化ホール 展示室２　【参加者】66名（市内52名／市外14名）
	3 月 14 日	**地元のリノベーション事例見学** ・民泊施設「内川の家 奈呉」（運営：（株）プロデュース） ・事務所・サロン「ma.ba.lab.」（（株）ワールドリー・デザイン）
	3 月 29 日	**計画策定**

先進地視察研修①
福井県坂井市三国町

先進地視察研修②
石川県金沢市大野町

対話型講演会 &ワークショップ
「空き屋大変身!大会議」

うちかわ移住者受入モデル地域支援事業実行委員会 構成メンバー

※2018年11月現在

役　職	氏　名	所　属　等
委員長	松原　穂積	放生津地域振興会　会長
副委員長	渋谷　公一	新湊地域振興会　会長
〃	本郷　俊作	水辺のまち新湊　理事長
〃	砂原　良重	射水商工会議所　事務局長
顧問	石黒　善隆	射水市議会議員
〃	加治　宏規	射水市議会議員
委員	旭　　俊明	荒屋本町自治会　会長
〃	鵜　　広明	天神町自治会　会長
〃	桧物　和広	法土寺自治会　会長
〃	佐竹　　正	古新町西部自治会　会長
〃	中田　光昭	北長徳寺自治会　会長
〃	槇　　一憲	四十物町在住
〃	真岸　潤子	立町在住
〃	津幡　佳代子	江柱町在住
〃	安念　孝浩	射水市未企画管理部　来創造課　主任
〃	島倉　信一	射水市都市整備部　建築住宅課　主任
〃	越後　　正	射水商工会議所　不動産賃貸部会長
〃	新川　篤志	(株) プロデュース　社長
〃	明石　あおい	(株) ワールドリー・デザイン　社長
〃	宮本　　忠	新湊地域建築組合　組合長
〃	海老　雅幸	水辺のまち新湊　常任理事
〃	手林　久芳	水辺のまち新湊　常任理事
事務局長	横田　義明	水辺のまち新湊
事務局次長	二口　紀代人	水辺のまち新湊　理事
事務局	山本　麻理佳	水辺のまち新湊　理事
〃	沼尻　美帆	水辺のまち新湊

先進地視察研修

2018年10月、委員会メンバーを対象に、空き家問題に取り組む地域および団体を視察研修しました。内川地区と歴史的背景や立地に共通点のある、福井県坂井市三国町と、石川県金沢市大野町を訪問し、現地で取り組む人々とも交流しました。

(1) 福井県坂井市三国町／2018年10月26日

8:40	出発（奈呉町観光駐車場）
10:40	到着（三国町商工会館前）
10:45～11:55	研修①懇談会（一般社団法人三國會所） 三國湊町家活用 Project をスタートさせ、空き家の利活用を進める地域活動を行う組織。 【空き家利活用の流れ】 ①活用できそうな空き家を見つける→②家主と三國會所が賃貸借契約を締結→③三國會所が改修工事実施→④入居者と三國會所が賃貸借契約を締結→⑤賃料の差額で町屋バンク運営と次物件の改修
12:00～13:15	研修②昼食（料理茶屋 魚志楼） 国の有形登録文化財で、現在は本格懐石の料理茶屋。華やいだ時代の面影を残す明治～大正期の建物で、「かぐら建て」の町屋、切妻造の土蔵、数寄屋風の奥座敷が連なる。
13:30	研修③見学（町家ステイ「詰所三國」） 京都で町家再生事業に取り組み、和風伝統家屋の修築保存活動に携わる Alex Kerr 氏がプロデュースしたゲストハウス。築百数十年の薬屋が町家の趣を残し現代的な宿にリノベーションされた。
14:00	研修④見学（「マチノクラ」、「マチノニワ」等） 東京大学と福井大学が参画して、空き倉庫をまちの歴史や文化を紹介する資料館「マチノクラ」に改修した。隣接する下新公園および空き地を資料館と一体的に改修し「マチノニワ」と名付けた。
15:05	出発　（→到着 17:00）

アーバンデザインセンター坂井（旧・雲乃井）

アーバンデザインセンター坂井での懇談会

町家ステイ「詰所三國」

三国祭の山車蔵が町の至るところにある

料理茶屋 魚志楼

「マチノクラ」と「マチノニワ」入口

(2) 石川県金沢市大野町／2018年10月30日

9:00	出発（奈呉町観光駐車場）
10:10	到着（大野町町民会館）
10:15～11:45	研修①見学（「大野からくり記念館」） 北前船の港町として栄え、漁業・海運業・醤油醸造業などの歴史的な町屋が多く残る大野町は、「金沢こまちなみ地域」に指定されている。 「大野からくり記念館」は、幕末のからくり師・大野弁吉や「からくり」の紹介・展示を行っている。建物は北前船をイメージしており、設計は内井昭蔵氏（新湊博物館等設計）。新湊放生津・海老江地区に長く継承される曳山の「からくり」人形について認識を深める良い機会になる。
12:00～13:10	研修②昼食（宝生寿し） 店舗は古くからの民家を再生したもので格子窓が設けられ､その重厚な外観から伝統的な雰囲気を醸し出している。内装は白漆喰、朱壁などを用いており、金沢大野の「こまちなみ保存建造物」として金沢店づくり大賞受賞、その年のグッドデザイン賞（建築・環境デザイン部門）を受賞している。
13:30～15:30	研修③懇談会（大野みらい・まちなみ委員会） 醤油蔵と風格ある町屋の連なりを基調に、伝統的な町屋保存・復元や醤油蔵の活用による町並み保全に取組む住民主体の街づくり組織。まちづくり活動への参加経験者は37%、そのうち62%もの人が現在も活動に参加しているという住民参加意識の高い地域。
	研修④（「こまちなみ醤油蔵」、「直江家（直江家源兵衛醤油）」） 「直江屋源兵衛」は、文政八年（1825）に創業した歴史ある「大野醤油」の代表格。築 100 年を超える建物は、外の影響を受けないよう光が入らない構造で、廻りは土壁に覆われ外観は古いまちなみに合うようシックな色調で統一され、天井は屋根裏まで吹き抜け格子の付いた窓も趣がある。
15:35	出発　（→到着 16:45）

大野からくり記念館

直江屋源兵衛の見学

宝生寿し

まち歩き

こまちなみ保存建築物として認定された家屋

意見交換会

町空き屋大変身!! 大会議

対話型 講演会&ワークショップ

日時　2019年2月12日(火) 13:30～16:20

会場　高周波文化ホール 展示室2

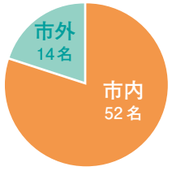
講師　山口 覚さん
津屋崎ブランチ LLP 代表
NPO法人 地域交流センター 理事
慶應義塾大学大学院政策・メディア研究所 特任教授

開催概要　空き家はまちの財産！住みたくなるまちを、デザインしよう

以前から空き家の利活用や移住に関する様々な取り組みを行ってきた内川地区ですが、2018 年に実行委員会を立ち上げ、今後、地域ぐるみで「空き家の商品化」に取り組もうとしています。そこで、福岡県福津市津屋崎で、多くの若者の移住支援や、小さな経済をたくさん生み出す「スイミー理論」を実践されている山口覚さんを講師に招き、まちづくりや空き家の利活用に関する事例を学び、考える「対話型講演会&ワークショップ」を開催しました。

参加者　総数66名

市内：52 名（46 名＋市役所 6 名）、市外：14 名／男性 6：女性 4



平日の昼間ながら、空き家の利活用やまちづくりに関心のある射水市内・市外の老若男女が集いました。内川地域の自治会長や民間団体、行政関係者のほか、富山市や上市町、南砺市、砺波市からも参加がありました。

講師　山口 覚さん（津屋崎ブランチLLP代表／NPO法人 地域交流センター 理事／慶應義塾大学大学院政策・メディア研究所 特任教授）

北九州市出身。大学卒業後、大手ゼネコンに就職し東京へ。建設省（当時）所管の国土技術研究センターに出向し、過疎地域の現実を知る。NPO法人地域交流センターを経て、2009 年に福津市津屋崎へ移住。「まちづくりではなく､あえてまちおこし」と考え、多くの若者の移住支援や小さな経済をたくさん生み出すスイミー理論を、津屋崎にて実践中。「新しい価値観による、新しい働き方」のできる人材を一人でも多く輩出すべく、各地で様々な活動を行なっている。1 級建築士。

開催概要

13:30	開会、主催者あいさつ（委員長：松原穂積さん）
13:40～15:10	対話型講演会
15:20～15:30	委員会取り組み報告（事務局長：横田義明さん）
15:30～16:10	ミニワールドカフェ（内川でやれること・やりたいこと）／講師：山口覚さん
16:10～16:30	共有の時間
16:30	総括コメント（委員：手林久芳さん）、閉会

議事内容

代表あいさつ

実行委員長：松原 穂積さん

内川地区の空き家は多い。「借りたい・買いたい」人は多いが、「貸したい・売りたい」人が少ない。また、提供できる情報が少ない。各家は個人の資産ではあるが、町並みや景観は地域の財産だという思いで、内川地区の大切な財産を、地域のみなさんと協力しながら活用していきたい。

講演会スタート

講師：山口覚さん

「空き家や空き店舗をどうする?」「町並みを残そう」という話が語られない日はない。しかし、大切なのは外観ではなく中身、地域の人たちの営み。病気になってから行う対症療法よりも、食生活や運動などで体質を変えるような、根源治療が必要だ。町も同じ。これには長い時間がかかる。津屋崎では、いつも話し合いをしている。10年、20年かかっても考え続け、やり続けていくことが、まちにとって、もっとも大事なこと。例えば、10年前続いたイベントを、必ずしも続けなくてはいけない訳ではない。実行委員会が疲れ切って、楽しくないのならやめればいい。気持ちが入っていないなら、形だけ続いても意味がない。

津屋崎で、「本物」の暮らし、働き方、人とのつながりをつくる。

私のいる津屋崎は、もとは津屋崎町という歴史と人情の深い湊町。隣接する福間町は福岡市のベッドタウンで利便性の高い地域。この２つの町が合併し、福津市に。博多空港まで１時間圏内なので、都会にあるものを持ってくるより、都会はできないような、本物の暮らしや働き方、人とのつながりをつくるプロジェクトを 2009 年から始めた。田舎ならではの小さなビジネスを作ったり、地域の人々が集える場を作ったり、移住してきたい人たち向けの旅行等を行ってきた。スタートから10年、私が活動を始めてから新たに増えた住民は1,000人近く。最初に入ってきた100人がまたさらに人を呼んでいる。地元の人と新しく入ってきた人が、新しい町の風景を作っている。未就学児をもつ 30 代の夫婦がどんどん移住してきたため、今は小学校がパンク寸前になっている。

いちばん大切なのは、対話。

新住民がたくさん入ってくると、コミュニケーションがぎくしゃくしてくる。旧住民からすると「あいつらいつも何してるんだ?よくわからん」、新住民からすると「地元の人はなんだか閉鎖的」という風に。そこで、新住民と旧住民の自己紹介の場を作ってみた。顔を見て対話すれば、コミュニケーション問題はほとんどが解決する。また、津屋崎では、子どもを子ども扱いしない。中学生との対話でハッとさせられることもある。「大人はずるい。すぐに先回りして答えを言ってしまう」「自分たちが興味のある性の問題から話をそらそうとする」など。地域の大人たちが彼らの希望を叶えてあげると、信頼が生まれてくる。かっこいい大人たちを手伝いたくて、どんどんボランティア活動に参加してくるようになった。

「プチ起業塾」は、田舎で暮らすために、月10万円稼げる仕事を３つ持とうというもの。そこから、店長7名が曜日替わりで切り盛りするワンデイシェフ制のカフェ＆ギャラリーが生まれた。店主は、 週に一度だけ夢のお店を持て、利用者は日替わりで違うお店を楽しめる。空き家を利用した店舗が次々にでき、革工房、木工スペースなど個性的な場所もできた。部活付きカフェもある。畑部、バスケ部、仏像部…など、 様々な部活が生まれている。

自分の好きなこと、得意なことを、小さくてもやってみる。そんな小さな活動がたくさん集まると、大きなまちおこしにつながる。それが私の考える「スイミー理論」だ。

講演の間に、参加者どうしの自己紹介や意見交換を挟みながら進められた【対話型講演会】

古民家再生事業について

自己実現の先に地域貢献がある。
そのためのステージが「空き家」

「古民家再生事業」には、最初から力を入れている。空き家問題の多くは、①家主の居住地を突き止められない（名義変更していない）、②家主本人は都会に住んでいる、③兄弟の同意がいるため、ひとりで決められない、④倉庫として使っている、⑤仏壇がある、⑥修繕費がかかる、⑦貸してもいいが居座られたらという不安がある…などだ。⑦については、大家さんの一存で借主に出て行ってもらえる「定期借家」制度があるので、これを知っていると安心。

空き家バンクの失敗!?

家を「貸したい・売りたい」と思っている人は、まず不動産屋に持っていくため、市町村などが運営している空き家バンクではそういう物件は扱われない。また、不動産屋は、価値を上げて売りたいので、改修を勧めるため、やる気のある大家さんほど、金銭的負担が増えることも少なくない。

そこで、それを逆手に取り、「貸したくない・売りたくない」と思っている大家さんに対し、金銭的負担をゼロにする方法で、説得すればいいのではないかと考えた。

寄付方式（ゲストハウス旧河野邸の場合）

30年空き家で放置されていたため、ごみや雨漏りで貸せないといわれた物件。そこで、7年貸りる間に修繕し、利子をつけて返す約束をした。この修繕費は、ハワイのリゾートホテルの方式をならい、寄付制にした。50 万円払った人は泊まりたい放題。修繕は、地元大工さんと組んで行った。若い職人たちは、古民家などを触ったことがないため、非常によい経験となった。出来上がった建物で職人さんたちの宴会をしたら大盛り上がりだった。大家さんの息子さんが宿泊したり、法事に使ったりして７年が経った。約束通りお返しする話をしたら、「好きに使ってほしい!」ということで、継続して使わせてもらっている。ただ、無料はよくないので、２年おきの定期借家とし、家賃を払っている。

家賃前払い方式

空き家は、しっかり修繕すると 2,500 万円くらいかかるが、雨露をしのげる程度と水まわりの改修なら、500 万円くらいで済む。その修繕費 500 万円を、12年間家賃として先払いする方法。家主さんは、単に貸したくない・売りたくない訳でははない。「誰にでも」貸したくないし売りたくないのだ。

今の不動産屋さんは、借主に大家さんを合わせないし、前の住人も合わせないが、それも逆の発想をした。まず、大家さんと借主候補で「お見合い」をする。建物の歴史も説明してもらう。お見合いの前に、入居希望者 20 名程度のリストを用意し、大家さんが選ぶ。あるアーチストの家主さんは陶芸作家を選んだ。今では、津屋崎の風景が絵皿となり、ロンドンや台湾など海外にも渡っている。歴史の深みや家主の思いをわかってくれる人と借主をつなげることは、最も大事なこと。

自主改修方式（セルフビルド）

「空き家を誰かに管理してもらいたい。家賃もいらないから…」という家主さん。そこで、家を DIYで改修したい若い夫婦に住んでもらったケースもある。不動産屋さんや地元の改修業者などは、住みやすくするためと 100 年前の味のある板張りを、フローリングにしてしまったりと、残念な改修をしてしまうことも。家主と感性のあう借主を見つければ、お互いがハッピーになる。

空き家活用応援団

今まで話してきたことも、最初からできていた訳ではない。最初は手弁当だったし、模索の連続だった。移住してきた青年が、あくまでも「小さな起業」として、一般の不動産屋さんが扱わないような空き家物件を専門に扱う不動産屋を始めた人がいてから、様々な実績ができてきた。

活動報告

事務局長：横田義明さん

モデル地域の認定は県内で７番目。内川地区の空き家率は平均で約 20%。中には40%超の自治会もある。少子高齢化によって住民の負担も増えており、長く続いてきた獅子舞や曳山、神社、地蔵尊などの保存や継承が困難になりつつある。

そこで、昨年５月に実行委員会を発足し、8月に事業認定された。今後、空き家の商品化を図りたいと考えている。

ミニワールドカフェ

みんなで話そう！
内川でやれること、やりたいことは??

（中村／青年会議所）：京都の先斗町は、空いたお茶屋を芸術家のアトリエやギャラリーにしている。空き家も減り、景観もよい。エリアごとにテーマを設けて人を集める工夫をしてはどうかと思う。

（中西／おきがえ処 KIPPO）：「越中八尾ベース OYATSU」を中心に、「平面ホテル化構想」がある。宿は宿泊に特化し、食事や体験は地域でというもの。「うちかわホリデイマーケット」が一区切りなので、今度は新たに場所を変え、空き家で出店してもらえたらと思う。中学生を大人扱いするという話がよかった。町を愛する気持ちが生まれ、いずれまた戻ってきてくれると思う。

（明石／ワールドリー・デザイン）：空き家をリノベし飲食店をオープンする方が。内川で働く身としては、ランチ処が増えるのがありがたい。「おうちおもい会員」とてもよい。茶話会的なものとして、写真を整理しながら、自分たちの思い出や地域の昔のことを話せるような場づくりをしたい。

（田中／射水市勤務）：東新町商店街で、魚も肉も両方楽しめる居酒屋を、オープン予定。魚の生臭さが苦手な人も、肉が苦手な人でも、楽しめるお店にしたい。ランチもやる。夫とともに着物で接客予定。着物で楽しめる内川を提案していきたい。

（山本／高岡市在住）：リノベーションは金銭的にも高負担。1,000 万円以下でできるモデルハウスをつくってはどうか。雨露をしのげる程度、水回りなどの最低限の補修でどこまでできるかを見られるもの。

（講師：山口）：自分たちのまちは、先進事例ではない。挑戦事例だと言っている。考え続け、挑戦し続けていきましょう。

総括コメント　手林久芳さん

5 年前「消滅可能性都市」が発表された。県内では、朝日町や氷見市など 5 市町村が入っていた。射水市はリストに入っていなかったが、それで安心していてはだめだ。危機感をもって奮闘しなくては。移住希望都道府県ランキングで、関東近県がトップを占めるなか、富山も 10 位以内に。これには可能性を感じる。水辺のまち新湊に、どんどん意見や相談をしにきてほしい。

もっと空き家を活用する、アイデア

「空き屋大変身!!大会議」の中で、参加者たちから出てきた空き家アイデア。すぐにできるかどうかは別として、少しでも多く実現できたらと考えています。

低予算のリノベーションモデルハウス

改修費用 500～600 万円のモデルケース！

新参者いらっしゃ～い茶話会

UI ターンで新湊に暮らす人やお店を始めた人を交えたカジュアルなお茶会を楽しもう♪

店主も変わる?!日替わりカフェ

いろんな人が日替わりで気軽に飲食店を始めることのできる拠点をつくろう。

蔵を使った期間限定アトリエ

内川周辺住居の特徴でもある蔵を活用して、作家が期間限定で展示会&工房を開設。

内川文化祭

地元のサークル活動での作品展示、地域の歴史や民話を知る朗読会や演劇など、内川沿いのリノベーションスポットで開催。

あなたの家のお悩み相談会

建築士や不動産等の専門家による空き家相談会。改修予算や相続、安心して貸し出せる方法等に特化した相談とする。

空き家のお見合い会

貸したい売りたい人が自ら、空き家となっている自分の家を紹介し、内川暮らしに興味のある人と直接語り合って決める。

空き店舗に明かりを灯そうフェス

店じまいした店舗を、1 日限りの復活営業。

内川地区移住者受入促進計画

10 年後の目指すべき姿

① 町並み景観を残しながら、移住・定住者が増えるまち

② 地域ぐるみで移住・定住者を支援するシステムができ、まちの祭り・伝統・行事を共に支えるまち

③ 内川沿いに若者向けの個性ある店が誘致され、新たな人の流れが既存商店街にも賑わい効果をもたらすまち（例：新潟市沼垂商店街）

5 カ年計画

1年目（2018 年）	2 年目（2019 年）	3 年目（2020 年）	4 年目（2021 年）	5 年目（2022 年）
促進計画の作成	促 進 計 画 の 実 施			
★ 空 き 家 物 件 の 特 定				
●先進地視察 ●シンポジウム開催	●1年目の活動報告書（冊子）作成 ●UIMPsnsの立ち上げ ●移住者と地元住民との茶話会 ●お家のお悩み相談会 ●活動報告会	●空き家の紹介ツアー ●空き家のお見合い会 ●物件のサイト掲載 ●活動報告会	●シンポジウム開催	●シンポジウム開催

★空き家物件の特定

地元の自治会を対象に、空き家実態調査を開始しています。モデル地区の自治会長に依頼し、家屋の所在地や管理者、空き家になってからの年数や状態などを調べてデータベース化し、家主の了解が得られたものについては、射水市「空き家情報バンク」などでも紹介していく予定です。

射水市新湊地区（内川周辺地域）空き家実態調査票▶

地域住民が求める移住者像

若者、子育て世代

田舎暮らし、古民家暮らしを楽しもうとする人

海が見える景色や内川が持つ個性ある風情を大切にしたい人

伝統文化を既居住者とともに守っていこうという意欲にあふれた人

地域における役割分担

① 実行委員会は、移住希望者と空き家を利活用したい人との窓口的な存在を目指す

② 自治会長には、地域の維持・活性化のため空き家情報の集約に協力してもらう

移住者募集のPR方法

① 対象地域に該当する物件情報（平面図・写真等）を、市空き家情報バンクに掲載。

② 水辺のまち新湊のHPで移住希望者向け暮らし情報の発信を行う。

現地視察受入方法

① 暮らし体験を希望する人に、水辺のまち新湊が運営する移住体験施設を紹介する。

② 地域の人が普段から利用するお店や料理等を、移住検討者に紹介案内する。

利活用できる空き家物件

① 住居用物件、店舗物件の情報を整理する。

② 跡継ぎがいない店舗で売却・賃貸可の物件情報を提供する。

住宅等の購入・賃借に係る専門家

① 空き家物件を買う際に躊躇する悩みは改修費用が予測できないこと。
建築士・Heritage Manager（ヘリテージマネージャー）・新湊地域建築組合・不動産会社等との協力体制を築く。

移住者に提供・あっせんできること

① 移住し、実際に暮らしを始めた人へのサポートを行なう

② 地域ぐるみで歓迎会を開催する

③ 地域ならではの文化や風習を体験できるよう交流会を開催する

④ 祭・イベントに誘い定住に繋がるよう様々な機会と情報を提供する

リーフレット（実例）

町空き屋大変身!! その3 大会議

講演会＆ワークショップ

日時　2022年2月26日(土) 14:00～16:30

会場　Zoomによるオンライン開催
当初予定：クロスベイ新潟2F ICNホール

講師　やまだのりこさん
一級建築士／あとりいえ。代表

開催概要　空き家はまちの財産！住みたくなるまちを、デザインしよう

以前から空き家の利活用や移住に関する様々な取り組みを行ってきた内川地区。2018年に実行委員会を立ち上げ、着実に成果が出つつある一方、活用されずに放置されたり壊されたりする空き家が急増しています。そこで、空き家活用の手前である「片付け」「掃除」という小さな活動を通じて、次々に空き家の活用・再生につなげているやまだのりこさんを講師に招き、事例をもとに内川でもできることを考える講演会・意見交換会を行いました。なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、オンラインでの実施となりました。

参加者　総数29名　市内：19名（15名＋市役所4名）、市外：10名／男女比ほぼ5：5

内川地域の自治会長や民間団体、行政関係者のほか、オンライン開催ということもあって市外の参加も多く、県外からは5名の参加がありました。開催日1週間前にオンラインでの開催を最終決定し、実施しました。

講師　やまだ のりこさん（一級建築士／あとりいえ。代表）

石川県加賀市大聖寺の町家生まれ。金沢工業大学建築学科を卒業し、金沢市内の設計事務所に勤務の後、2010年町家を借り、「あとりいえ。」を設立。町家改修、空き家＆スペース活用、「おくりいえプロジェクト」など、家を町にちょっぴり開く、ちっちゃなプロジェクトを中心に、日々活動している。
金沢工業大学非常勤講師、金沢美術工芸大学非常勤講師。

開催概要

司会：田村穂乃（(株) ワールドリー・デザイン）

14:00	開会、主催者あいさつ（委員長：松原穂積さん）
14:15～15:15	講演会「家を送るから贈るへ～おくりいえプロジェクト～」
15:25～15:35	報告1：射水市の空き家事業について（射水市未来創造課 河内祐介さん）
15:35～15:40	報告2：委員会の取り組み報告と今後について（事務局長：横田義明さん）
15:40～16:00	報告3：内川のリノベーション事例（事務局：マリエトーマス山下さん）
16:00～16:30	意見交換会（内川でやれること・やりたいこと）・共有
16:35	総括コメント（水辺のまち新湊 代表理事 本郷俊作さん）、閉会

グラフィックレコーディング：坂本理恵（(株) ワールドリー・デザイン）

議事内容

代表あいさつ　実行委員長：松原穂積さん

内川地区は少子高齢化で空き家が増え、再編計画で地域から小学校がなくなるかもしれない状況に大変危機感を抱いています。一方、少しずつ地域再生活動も進みつつあります。今月18日の北日本新聞のコラム天地人で、内川周辺を「少子高齢化でどこも人が減り、空き家ばかり増える中、昔からの風情を大切にしながら埋もれた魅力を探し、磨き上げようとする熱意が伝わってきた」とありました。地元に住む私たちもさらなる努力をすべく、参加者の意見をいただき、地域再生の礎にしていきたいです。

講演会スタート　講師：やまだのりこさん

おくりいえプロジェクト

金沢に残る町屋は約6000軒。2009年、年間約270軒ものの町屋がなくなっている現状を耳にし、その家の最期を何かして看取れたらという思いではじめたのが「おくりいえプロジェクト」です。今は、「さよならの意味の「送る」から、プレゼントの「贈る」に変わってきました。金沢市内を中心に55回開催され、県外開催も増えています。参加者はボランティア。みなで一緒に掃除するのは楽しく、リピーターや県外からの参加者もいます。つなぎを着て、人・モノ・家をつなぐ活動をしているので「つなぎ隊」と呼んでいます。

はじまったきっかけ

知人宅の隣の町屋が、数日後に取り壊されることを知り、建築仲間と実施したのが記念すべき第一回。目の前のものが壊される危機感と、町屋に対して何かしたいという思いで建築仲間と企画しました。人が亡くなるときに死化粧をしてきれいにして見送ることと同じように、取り壊される町屋の中をきれいに掃除し、毛糸を張り巡らせて彩り、最期を見送るイベントにしました。子どもから大人まで参加してくれ、「こんなところに町屋があったんだ!」など様々な声があがりました。中でも「このおうちこわさないで!」と泣きながら言う子どもの様子がとても心に響き、このプロジェクトは続けていかなければならないと思いました。

モノをつなぐ、家族をつなぐ

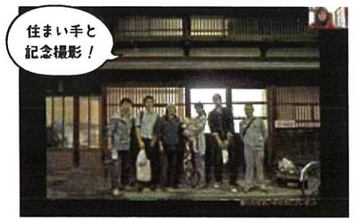
このプロジェクトで何をするかというと、まず家の中を片付けること。空き家の中はたくさんのモノであふれ、足の踏み場もない状態で20～30年放ったらかしになっているケースが多くあります。その後ピカピカに掃除をし、最後に彩ります。

3回目からは、掃除だけでなく、家の中に残されたまだ使えるモノを宝探しのように見つけて持ち帰ってもらうというイベントになりました。そうすることで、中のモノも減り、ゴミも減ります。モノの命もつながっていきます。私もこの時持ち帰った食器やグラスを今も愛用しています。

また、親子で参加された方で「初めて雑巾しぼり・雑巾がけをした」という声も。今の家だとなかなか雑巾がけできないですし、親から子へとこういうものを伝えることも少ないですからね。家主さんは当初、取り壊すつもりだったのですが、掃除をしてきれいになったことで借り手が見つかりそうになりました。さよならの送るから、プレゼントの贈る方の可能性が少し見えてきた回でもありました。

新たな住まい手に「贈る」

5回目は、ついに「贈る」になりました。この家も最初はモノがいっぱいの状態でしたが、子どものいる若い世代が住むことになり、参加者一同大喜びでした。今回の撮影は、真ん中に写った家族がこの家に住む前の記念写真になりました。「おくりいえ」はいまや9割以上が「贈る」に変わっています。



いろんなカタチの「おくりいえ」

掃除するイベントだけでなく、家に対して最後に何ができるか、何をしたら家が喜んでくれるかを考えて開催することもあります。7回目は、取り壊し予定の築100年の元仕出し屋で、中はきれいな状態でモノはなかったので掃除する必要はありませんでした。最後に何をしたら家が喜んでくれるかを考え、この家史上最大の宴で幕を閉じるのがよいだろうとなりました。そこで、食べたいモノを持ち寄り、「最後の晩餐」と称して宴を開催しました。名画「最後の晩餐」になりきった写真を撮って盛り上がり、この日は思い出として今も色濃く残っています。

17回目は、金沢市大野町にある銭湯へ。銭湯としての歴史に幕をとじるということから、地域の今昔写真展を開催しました。町の人から集めた写真を銭湯の中に飾り、懐かしんでもらいました。

石川県以外での「おくりいえ」

30回目には、参加者がのべ5000人を超えました。また、県外からの依頼も増えはじめました。県外では、主催を地元の人にお願いしています。宮崎県ではこれまで2回開催おり、主催は宮崎県建築士会。宮崎には町屋が少なく、珍しいからこその開催でした。取り壊された町家の材がしっかり保管されているので、将来的に「贈り家」になる可能性もあります。解体した材に番号を振っておけば、またどこかで建てることができるのです。

秋田県ではこれまで3回開催。37回目は、地元の方からの依頼で冬の秋田へ。仲間たちと秋田まで飛んでいき、地域の方と一緒に掃除をし、交流して帰ってきました。地域の方との交流も楽しみの一つですし、地域によって町屋のつくりも違って興味深いです。

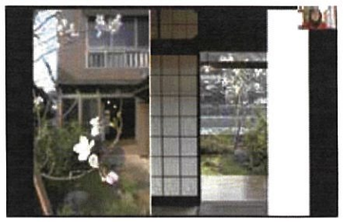
ちっちゃなプロジェクト「まちのいえぃ！」

「まちのいえぃ！」という軽やかなプロジェクトを紹介します。町屋改修や空き家・スペース活用によって、町に家をちょっぴり開くということをしています。改修にお金はかかりますが、ものすごくお金をかけてるわけではなく、また、家一見全部ではなく、一部屋だけの部分改修でも活用はできます。とにかく町に家を開いて行くことで、地域全体をよくしていけたらと思っています。

①夜の図書館ベール、2015年～

②レンタルスペースアンド、2016年～

③あさのがわのいえ、2017年～



④夜の図書館もーり、2019年～

「おくりいえ」を当たり前に。小さな積み重ねがまちを輝かせる

1年に10軒の家に関わると、10年で100軒になります。建築家や町の人が関わることで、少しずつ町並みを整えて町を美しく、暮らしを楽しくできます。実際、「あとりいえ。」設立から10年を経て、約100軒に関われています。外壁の修理、一部屋だけの改修など、小さなことでも積み重なって10年経てば、目に見えて美しさがわかるようになってきます。無理をせずに、家や人と長くお付き合いをできたらいいなと思っています。少しずつ関わっていくことで今や将来が楽しくなる可能性があります。小さなことからみなさんコツコツやってみませんか?

目指しているのは「おくりいえ」が当たり前の社会になること。これまでもご縁のあった家を送ってきましたが、これからもご縁を大切に心を込めて取り組んで行きたいです。お金をかけず、温かい思いで家を助け、ちゃんと次につながっていく可能性が増えます。小さな積み重ねが町のきらきらにつながると信じています。今は残念ながらコロナ禍でストップしていますが、今年の春から再開していきたいと思っています。射水市でも開催される時はぜひ協力させてください。

やまださんへの質問タイム

Q 「おくりいえ」する町屋や空き家はどのように募集していますか？

A 募集は特にしていませんが、家主などから依頼がきます。金沢町屋研究会が主催する町屋巡遊で、「おくりいえ」のイベントをしたことで周知され、依頼も参加も増えてきました。依頼があると現地を見に行き、依頼者と話して進めます。

Q 掃除の日程はどのように決めていますか？

A 時間は、9時～17時までと決めています。参加者は出入り自由で、家の中には常に10～20人くらいて、参加人数が多くなりすぎると帰られたりもします。数時間、部分的に参加される方も多いです。

Q ゴミの処分費などお金のことについて教えてください。

A いちばんお金がかかるのは、ゴミの処分費です。その処分や費用に関しては、依頼者に負担してもらいます。様々な依頼の形があり、依頼者は家主だけでなく不動産屋の場合もあります。

Q どんなふうに掃除していますか？

A 最終的に処分しやすいよう一部屋にモノを集め、他の部屋からきれいに掃除します。細かなゴミの袋詰めもします。家の中の状況はそれぞれ違うので、依頼者の希望を聞きつつ、1日で掃除できる量なども相談しながらケースバイケースで進めます。掃除用具は参加者が雑巾やホウキ、チリトリなどを持参します。掃除機は壊れてしまうのでほとんど使えません。

Q 「最後の晩餐」で撮影などに使った道具などはどう調達しましたか？

A 町屋の中にあったモノを使用しました。家の中に花瓶が残されていたら花を入れて愛でたり、神棚があったらお参りしたりします。その場にあるものを活用して、儀式的なことをすると気持ちもすっきりします。

Q ボランティア参加者はどのように募集していますか？

A 公式ホームページにこっそりと掲載しています。リピーターも多いのですぐに集まります。町屋は大きくないため20～30人で十分すぎるくらいです。

Q 活用される家なら前向きな気持ちになりますが、取り壊される家ではやはり切ない気持ちになると思います。取り壊す家の場合で、やまださんや参加者の思いやエピソードをお聞きしたい。

A 活用される家と取り壊しの家、どちらも気持ちの差はあまりないです。家を救えればいいけれど、家にも寿命はあります。無理にたくさんお金をかけて直すのは逆に痛々しいような気もしています。取り壊す家の家主は、心が浄化されたと聞くことが多いです。神主をよび解体儀式をした後、寂しいけれど、町の人と一緒にこの家でこの時間を最後に過ごせてよかったという温かい気持ちを持つ方が多いように感じます。寂しい涙より、「ありがとう」という暖かな涙を感じることが多いです。

Q 家主は断捨離が苦手な高齢者が多く、なかなか片付けにふみきれない現状がありますが、家主さんは片付けをある程度してから依頼されるのですか？

A いるモノといらないモノが残っていて片付けができない時は、無理して「おくりいえ」を行いません。最初の段階で依頼者に必要なモノが残っていないかを判断してもらいます。現地で何度も打ち合わせをするので、イベントを行う判断も併せてしています。おくりいえはしたいが片付けができていない場合は、片付けられるまでのお手伝いもします。高価なお皿は美術商に見てもらうなど、専門家の協力も仰ぎます。

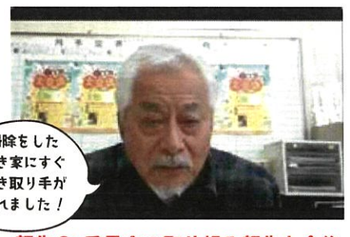
Q 小さな子どものいる家族が、空き家を受け継ぐケースはどの程度ですか？

A 入居されるのは、30代や子どものいる若い世代が多いです。また、空き家活用は住まいよりも店舗やアトリエなど、町に開かれる施設になることのほうが多いです。

報告1：射水市の空き家事業について

射水市未来創造課 河内祐介さん

市内の空き家は増加傾向。空き家が管理不十分なまま放置されると様々なトラブルになるため、所有者に適切な管理を促しています。状態の悪い空き家は「特定空家等」として法律に基づく指導等の対象となります。海側の新湊中心部に集中している空き家の特徴は、隣家と壁を接するか共有している、駐車場やお風呂がない等で、今のライフスタイルでは使いづらい面も。一方、海や川が近く、移住希望者に人気の地域で、店舗の利活用希望者も多いです。最近は、イタリアンレストランや企業のサテライトオフィスに改修された例もあります。また、「空き家情報バンク」を通じ、所有者と借り手・買い手のマッチングにつなげたい。空き家セミナーや相談会、出前講座も開催。解体・リフォームの補助金制度等、気軽にお問い合わせください。



報告2：委員会の取り組み報告と今後

事務局長：横田義明さん

旧新湊市街地（放生津および新湊地域）の様々な課題を解決すべく、2018年に「5カ年の移住者受入促進計画」を策定。実行委員会を組織し、活用・行動計画のもと空き家の実態調査や先進地視察、講師を招いてのシンポジウム開催、情報発信などを行ってきました。4年間の実績としては、空き屋調査20件、空き家ボランティア清掃1件、売買契約成立5件（県内から2件、オーストラリアから1件、店舗1件）で、賃貸契約成立は3件（うち1件は埼玉から）、現在売買交渉中が3件（うち1件は東京から）、と着実に成果を出しつつあります。

移住された内藤さんからもコメント

購入した古民家はユニークな造りで、1階には吹き抜け、居間の上部には渡り廊下が。ボランティア清掃の上、一部改修工事をしました。富山の景観や環境、人に魅力を感じ、昨年11月、家族と移住。高度経済成長期の負債とも言える空き家が増える時代に、自分として何かできないかという思いもありました。

報告3：内川のリノベーション事例

事務局：マリエトーマス山下さん

N邸 休日にDIYで改修されたご夫婦の家。システムキッチンや洗面台も自ら新設したり、内装の塗装をされたりしています。

HOUBI 来月26日オープン予定のドライヘッドスパ専門店として改修工事中。4年強の空き家物件が、昨年12月に契約成立。

意見交換会（ブレイクアウトルーム）

みんなで考えよう！自分にできることは？

（坂本理恵／ワールドリー・デザイン）

空き家の所有者がモノを片付けていないということで利用や売却を考えないという課題が多くあります。また、家は住まないと急激に傷むことへの理解がないのではないかということで、その啓蒙活動をはじめていったらいいのではないかという意見が出ました。

（中崎祐佳 ワールドリー・デザイン）

若い世代に空き家への興味をどうもってもらうかという課題が指摘されました。若い世代にとって空き家は異世界。新しい感覚もあるので、そこを売りにSNSで情報発信するとよいかもしれません。

（明石あおい／ワールドリー・デザイン）

廃屋に近い空き家をいかに把握・解体・活用していくのかという話題が出ました。民間だけでは難しいからこそ市として推し進めるべきではないかと。また、利活用できる空き家とそうでない空き家があり、利活用できるものは民間で方法を見出し、利活用できないものは市として把握しマイナス面を減らしたりできるのではという意見が出ました。

総括コメント

水辺のまち新湊：本郷俊作さん

どんどん増え、家の両隣が空き家になるという状況でいろいろと悩みながらまちづくり活動をしています。まずは地元の人に地元の魅力感じてほしいと、春はジャズ、夏は納涼祭や魚釣り大会などのイベントを開催しています。私どもは義務感で何とかしなければと苦くなるところもありますが、やまださんはパワーがあり、とても元気で楽しそうだと感じました。空き家を地元の大きな問題として自覚し、やまださんの活動を勉強して、UIMPの活動へも取り入れていきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

司会：田村穂乃／ワールドリー・デザイン

グラフィックレコーディング（前半部分）：坂本理恵／ワールドリー・デザイン

チェックリスト

- □ _____
- □ _____
- □ _____
- □ _____
- □ _____
- □ _____
- □ _____
- □ _____
- □ _____

メモ

内川周辺の
風情あるまち並み

残したい
活かしたい
あなたの
大切な家

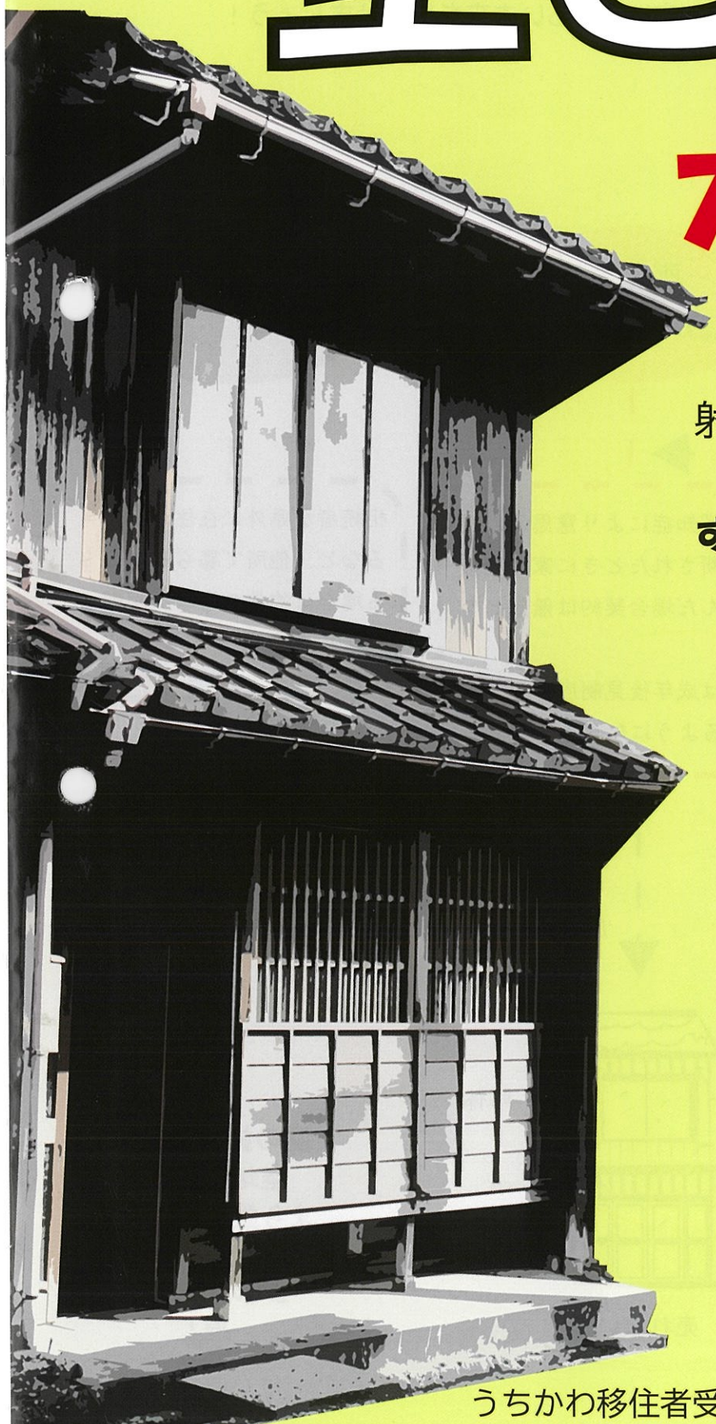
内川周辺で空き家を
大募集しています！
ご相談下さい！

NPO 法人水辺のまち新湊　TEL/FAX0766-82-2668

内川周辺地域*

空き家

大募集!!!



射水市「空き家バンク」への
登録に必要な手続きを
すべて無料で行います。

相談窓口：

TEL/FAX
0766-82-2668
平日 10:00 ～ 16:00

新型コロナウィルス拡大予防のため
事前に予約が必要です。

NPO 法人水辺のまち新湊
射水市放生津 17-1
E-mail: mizube_m@po9.canet.ne.jp

* 物件対象エリア
放生津地区内川周辺、新湊地区内川周辺
※ご相談者様の居住地は問いません。

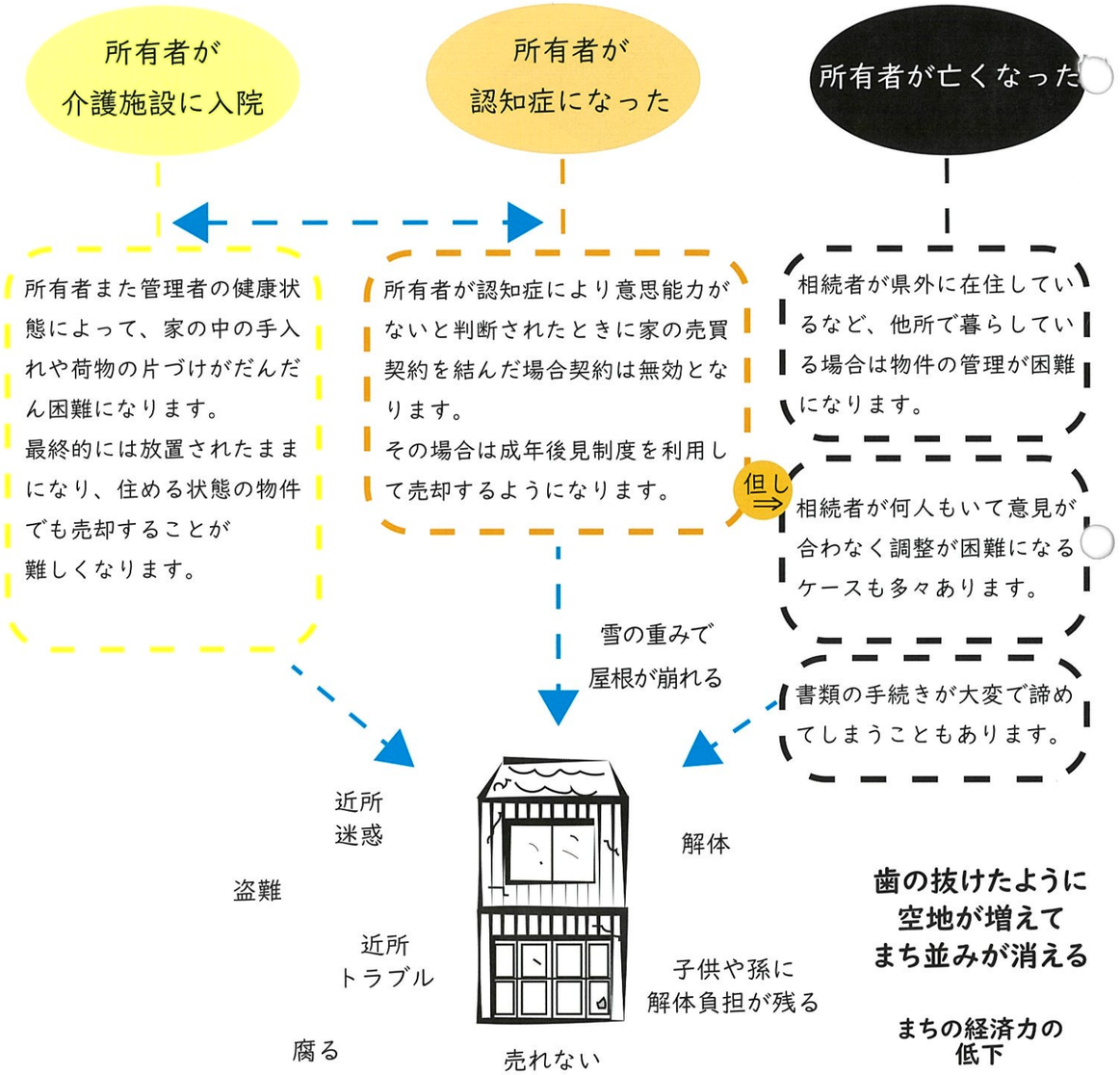
うちかわ移住者受け入れモデル地域支援事業実行委員会

”家族の大切な思い出がいっぱいの愛家を「空き家」と呼びたくない…

だからこそ、『空き家』のままではもったいない!”

時代を乗り越えたあなたの家は、この地域の歴史の一部です。
家族の思い出の中で生き残るその家に、新しい未来を見つけましょう！

【空き家】になってしまうパターン



“今”できること

家は貴重な財産です!!

空き家になる前でも、なってからでも、最初のステップはしっかり話し合うことです。「家を今後どうするか？」について、家族間で兄弟間でまず話し合いましょう！

空き家は、定期的に掃除や換気をしないと劣化が早く進みます。長期間にわたり放置したままであれば、折角の家が大きなダメージを受けることになり、傷めば傷むほど売却・賃貸は難しくなります。そして最終的には多額の費用を掛けての解体の道しか残りません。

また、家の中にある荷物・家具などを整理しておくだけで物件の魅力度は上がります。物件購入希望者に空き家内見の案内をしたところ、整理されている物件ほど成約に至りやすいことが分かりました。

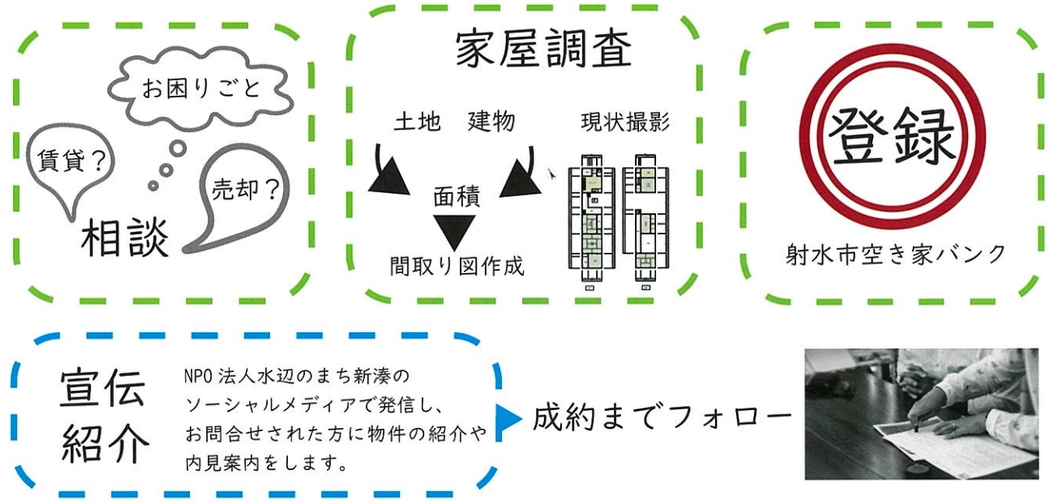
うちかわ移住者受け入れモデル地域支援事業を活用して安心

射水市のホームページ「射水でくらす」には「空き家バンク」というサイトがあります。

まず、ご相談ください !! 次に、空き家調査をさせてください !!

了解を頂いたら、**「空き家バンク」に登録します** !!

内川に魅力や関心を持っていらっしゃる方から、「空き家バンク」を見て多くの問い合わせを頂いています。オーストラリアの方から、九州の方から、北海道の方から・・・・信じられますか？　移住を考えていらっしゃる方にあなたの空き家情報をお届けします!!



うちかわ移住者受け入れモデル地域支援事業実行委員会　UIMP －

平成 30 年度に、内川周辺で空き家率の高い 7 つの自治会、商工会議所、まちづくり関係者、市職員など約 30 名が集まり、移住者を受け入れるための実行委員会が組織されました。県外・市外からの移住促進施策として、空き家を活用した宿泊体験・交流施設などの整備や、移住者受入・交流を通じた魅力ある持続可能な地域づくりを目指し現在活動を行っています。

※NPO 法人水辺のまち新湊は、うちかわ移住受入モデル地域支援事業実行委員会の事務局を担っています。

相談窓口
TEL/FAX：0766-82-2668
NPO 法人水辺のまち新湊
〒934-0022　富山県射水市放生津 17-1
平日 10:00 ～ 16:00
E-mail:　mizube_m@po9.canet.ne.jp